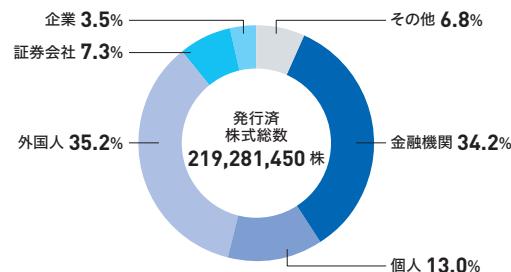


株式の情報 (2020年3月31日現在)

大株主の状況

順位	株主名	所有株式数	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	28,935,400	13.20%
2	アルプスアルパイン株式会社	14,837,907	6.77%
3	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	14,418,200	6.58%
4	UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	14,389,349	6.56%
5	クレディ・スイス証券株式会社	7,729,108	3.52%

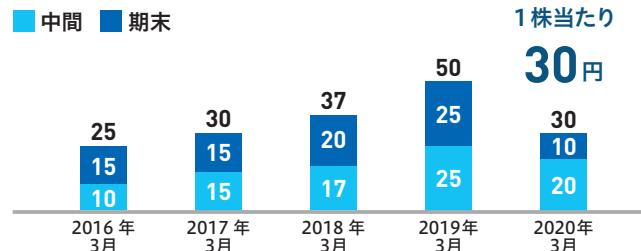
所有者別分布状況



(注) その他は、自己名義株式と保管振替機構名義の失念株式、政府・地方公共団体株式の合計です。

(注) 個人は、個人・持株会名義の株式です。

配当金推移 (単位)(円)



※2019年中間期までは旧アルプス電気単体の配当金額です。

株主メモ (2020年3月31日現在)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
基準日	定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日 期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日 中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日 その他あらかじめ公告して定めた日
定時株主総会 公告掲載	毎年6月下旬 電子公告により、当社ホームページ (https://www.alpsalpine.com/j/ir/announce.html) に掲載します。 なお、やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場証券取引所	東京(第一部)証券コード6770
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 ホームページ https://www.tr.mufg.jp/daikou/

【ご注意】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種手続きにつきましては、原則、お取り引きのある証券会社などにお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

株式事務に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター

お問い合わせ ☎ 0120-232-711

受付時間: 土・日・祝日等を除く平日9:00 ~ 17:00

ALPSALPINE

証券コード 6770

アルプス電気とアルパインは、アルプスアルパインへ。

ALPS ALPINE REPORT

No. 173

第87期 報告書

アルプスアルパイン株式会社
2020年6月24日

ALPSALPINE
アルプスアルパイン株式会社

〒145-8501 東京都大田区雪谷大塚町1番7号
TEL (03) 3726-1211 (大代表)
(03) 5499-8026 (IR部門直通)



こちらの報告書PDFは、認証紙に印刷された認証印刷物のデータを使用して作成しました。



新型コロナウイルスの影響による経済危機に対処し、 明日に向けた体質強化と新事業開発に努めてまいります。

皆様へ

樹木の緑が色を深め、夏の暑さを感じる季節となりました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

2019年度のエレクトロニクス業界は、自動車市場ではCASEへの開発活動が活発化する一方で、世界の新車販売台数の減少等の影響もあり低調に推移しました。民生その他市場では新たなビジネスが提案される等、活発に動きが進んでいます。しかし、両市場ともに2月からの新型コロナウイルスの影響が大きく、全体ではマイナス成長となりました。

当社の電子部品事業では、車載市場は新車販売減速の影

響を受け軟調となり、モバイル市場は新規顧客開拓や拡販活動を進めたものの軟調傾向となりました。一方、EHII各市場ではIoTを活用した具体的な展開が進み、新規ビジネス提案がされる等、動きが活発化しています。車載情報機器事業では、電子部品事業とのシナジーによりデジタルコックピットの提案を強化し、それに向けた製品の開発に注力しました。また物流事業((株)アルプス物流)では、新たな拠点整備とネットワークの充実を進め、新規取扱貨物量の拡大に努めました。

さて、足元においては、リーマンショックを超えるとも言われる新型コロナウイルスの影響による経済危機への対処が最優先となりますが、当社は2020年度の重点施策として、市況悪化に対応した体質強化・コスト構造改革と、明日につながる新製品開発と新事業の加速を掲げました。当社のグローバルに広がる全事業所においては、今後も社員の安全を第一に

感染予防を図りながら事業の継続に努め、「ITC101」達成に向けてビジネスの確保と次世代に向けた体質強化を進めてまいります。

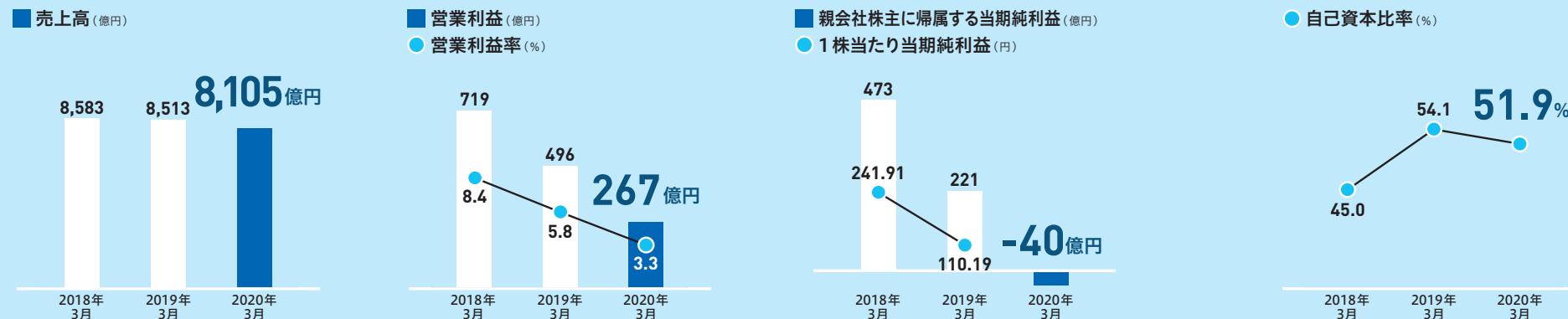
なお、当期の期末配当は1株当たり10円とさせて頂く予定です。今後も変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **栗山年弘**

〈用語解説〉

CASE Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric (つながる車、自動運転、シェアリング、電動化) **EHII** Energy, Health care, Industry, IoT (エネルギー、ヘルスケア、インダストリー、IoT) **IoT** Internet of Things (インターネット・オブ・シングス) **ITC101** Innovative T-shaped Company with 10% operating income margin and 1 trillion yen sales (革新的T型企業、連結で営業利益率10%・売上高1兆円の中長期達成目標)

連結業績ハイライト



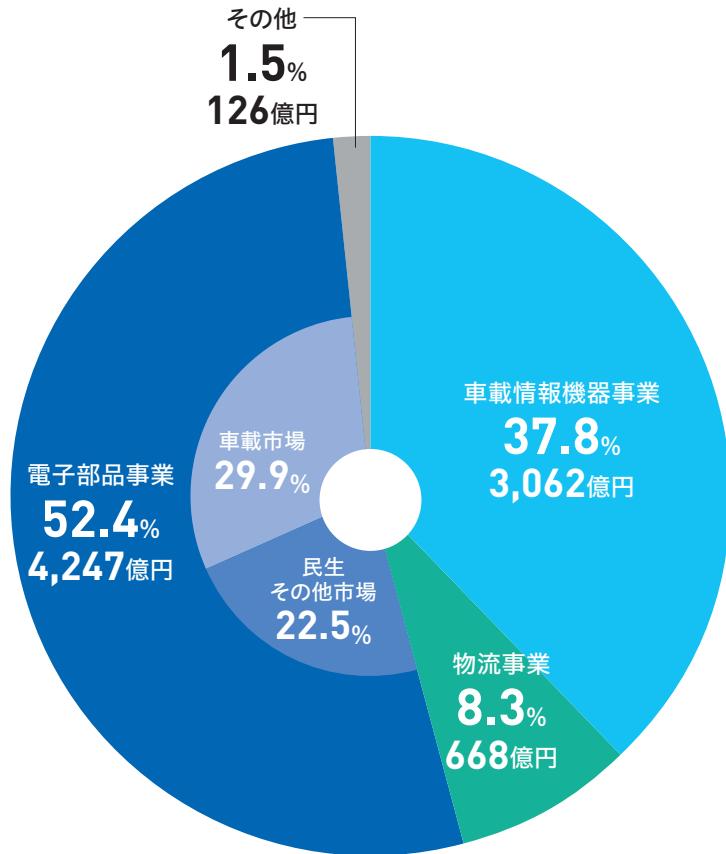
次期の見通し(2021年3月期業績予想)

▶ 売上高	7,025 億円 (前期比 13.3% 減)
▶ 営業利益	130 億円 (前期比 51.5% 減)
▶ 経常利益	105 億円 (前期比 43.7% 減)
▶ 親会社株主に帰属する当期純利益	30 億円
▶ 想定為替レート	米ドル/円 108・ユーロ/円 120
▶ 1株当たりの配当金(単体)	10円(中間) 10円(期末)

※2020/3為替レート: 米ドル/円 108.74・ユーロ/円 120.82

事業別の概況 (2019年4月1日～2020年3月31日)

売上高構成比率



POINT

- ✓ 電子部品事業ではCASEへの提案活動やIoT活用による具体的な活動の展開
- ✓ 車載情報機器事業ではデジタルコックピットの提案で強化し、それに向けた製品の開発に注力
- ✓ 物流事業では需要拡大が見込まれる地域のネットワークを整備

電子部品事業

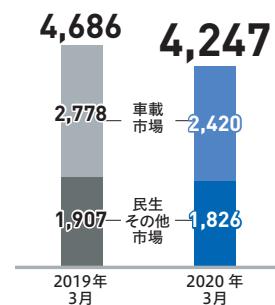
売上高

4,247 億円

営業利益

161 億円

売上高の推移 (億円)



車載市場は市況悪化の影響を受け低調、民生その他市場は新規顧客開拓や拡販活動を進めるも軟調に

エレクトロニクス業界は、自動車市場で新車販売台数の減少、モバイル市場で一部センサ等が好調に推移、EHII各市場ではIoTの活用による展開が進みましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりマイナス成長となりました。

車載市場 CASEへの取り組みにおける次世代への具体的な提案活動の推進

車内の高品位な入力デバイスや自動運転時代におけるタッチ入力モジュール等、次世代の製品への具体的な提案活動を進めました。

民生その他市場 IoTを用いた物流トラックが日本国内で初採用

モバイル市場では新規顧客開拓等を進め、EHIIではIoTを活用した製品がAGC(株)の輸送用パレットに日本国内で初めて採用されました。



車載情報機器事業

売上高

3,062 億円

営業利益

56 億円

売上高の推移 (億円)



自動車市場は新車販売台数の減少や企業間の開発競争の激化により厳しい状況で推移

中国や欧米市場を中心に世界の新車販売台数が前年比で減少する等、世界の自動車市場は総じて厳しい状況で推移しました。一方で、コネクテッドカーや自動運転に次世代移動通信規格5Gを活用するための開発競争が、IT・通信等の業種・業態の垣根を超え激化しました。その中で、電子部品事業とのシナジーを発揮したデジタルコックピットの提案で強化、それに向けた製品の開発を図りました。



物流事業

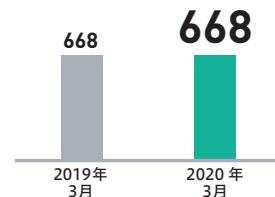
売上高

668 億円

営業利益

41 億円

売上高の推移 (億円)



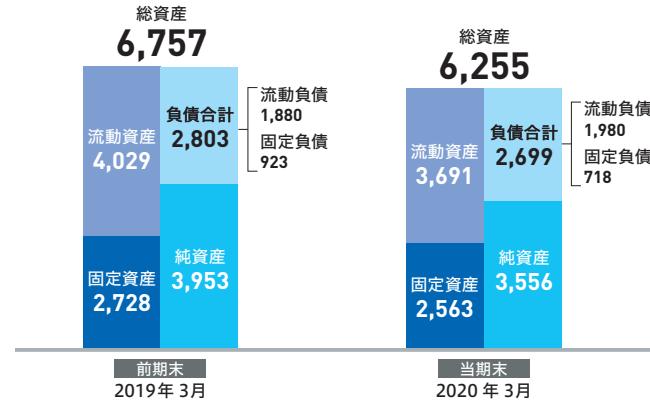
新規取扱貨物量の拡大を推進

(株)アルプス物流(東証第二部)では、中長期的に電子部品の需要拡大が見込まれるアセアン地域を中心に、新たにハブ拠点の整備とネットワークの充実を進め、新規取扱貨物量の拡大に努めました。また、車載関連製品の物流強化策の一つとして(株)ロジコムと合併会社を設立し、その海外展開の第一段階としてインドに現地法人を設立し、車載関連ビジネスの拡大を目指しています。

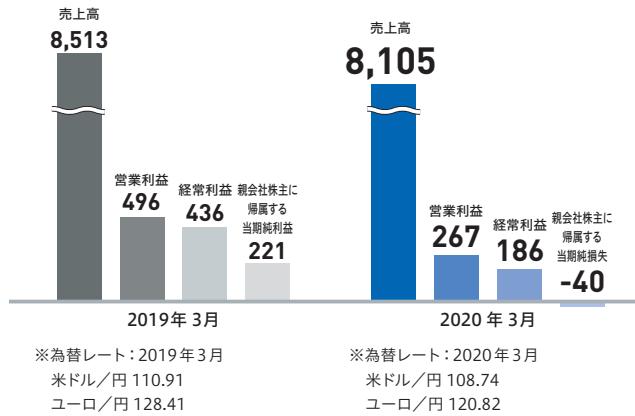


連結財務ハイライト (2019年4月1日～2020年3月31日)

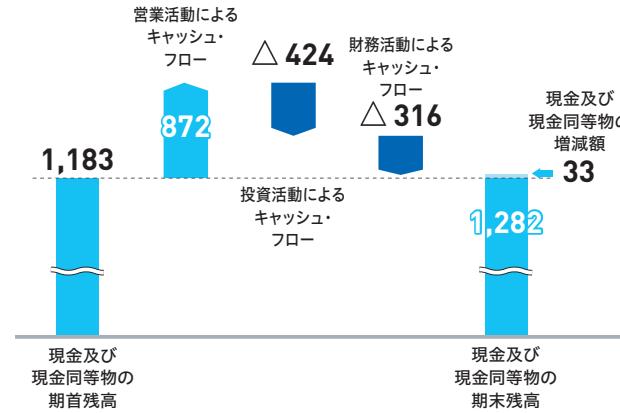
連結貸借対照表の概要 (億円)



連結損益計算書の概要 (億円)



連結キャッシュ・フローの概要 (億円)



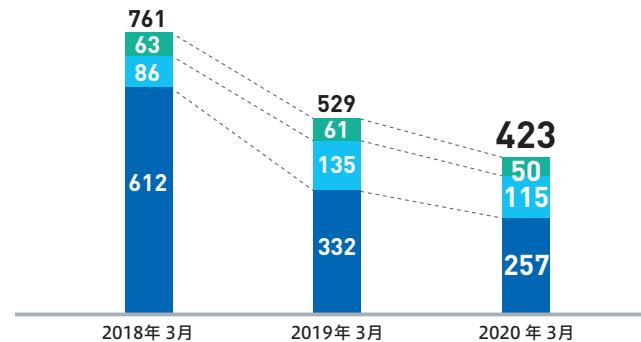
POINT

- ① 流動資産**
受取手形及び売掛金の減少と、現金及び預金の増加等により、前連結会計年度末と比べ337億円減少の3,691億円となりました。
- ② 固定資産**
機械装置及び運搬具、繰延税金資産の減少と、無形固定資産の増加等により、前連結会計年度末と比べ164億円減少の2,563億円となりました。
- ③ 負債合計**
流動負債は、短期借入金の増加と、支払手形及び買掛金の減少等により、前連結会計年度末と比べ100億円増加の1,980億円となりました。
固定負債は、長期借入金の減少と、退職給付に係る負債の増加等により、前連結会計年度末と比べ204億円減少の718億円となりました。

設備投資・減価償却費・研究開発費の推移 (億円) ※内訳には連結消去を含んでおりません。

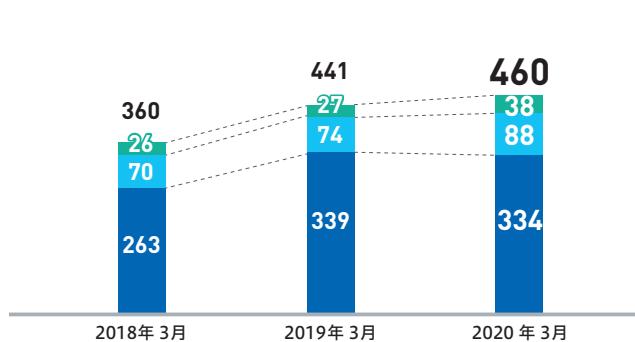
設備投資

- 電子部品事業
- 車載情報機器事業
- 物流事業・その他



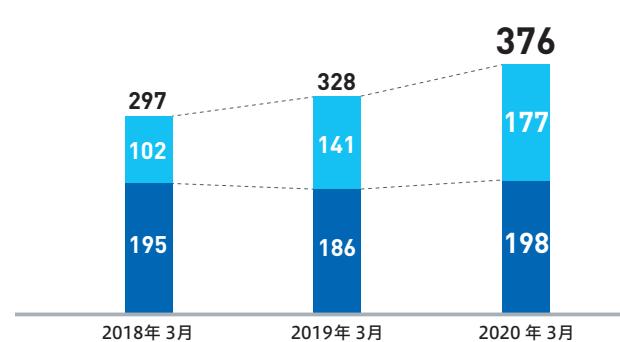
減価償却費

- 電子部品事業
- 車載情報機器事業
- 物流事業・その他

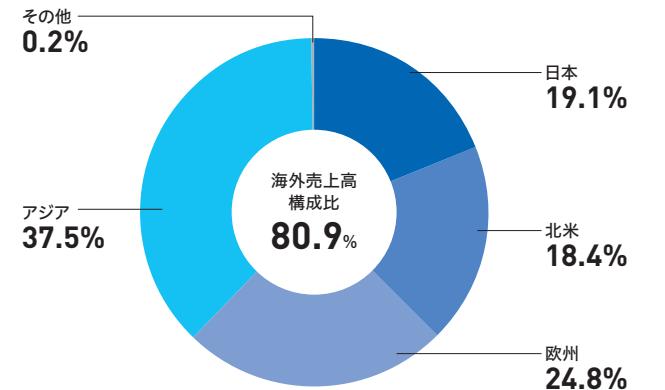


研究開発費

- 電子部品事業
- 車載情報機器事業



地域別売上高構成比



第1次中期経営計画進捗 (物流事業・その他を除く) 2020年3月期～2022年3月期

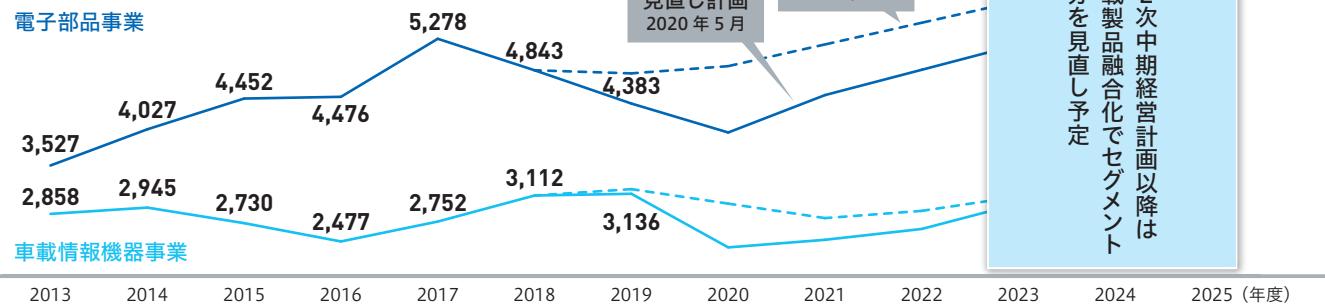
ITC101 売上ロードマップ (物流事業その他除く)

事業機会を逃さず、コロナウイルス危機対応下においても新規事業投資は継続
2021年度以降スマートフォン向け製品拡大、2023年度よりデジタルキャビン製品拡大



電子部品事業 : 2021年度以降スマートフォン向け製品拡大本格化
車載情報機器事業 : 2022年度まで低調、2023年度よりデジタルキャビン製品拡大

[アルプスアルパイン 単純合算]



コスト構造改革

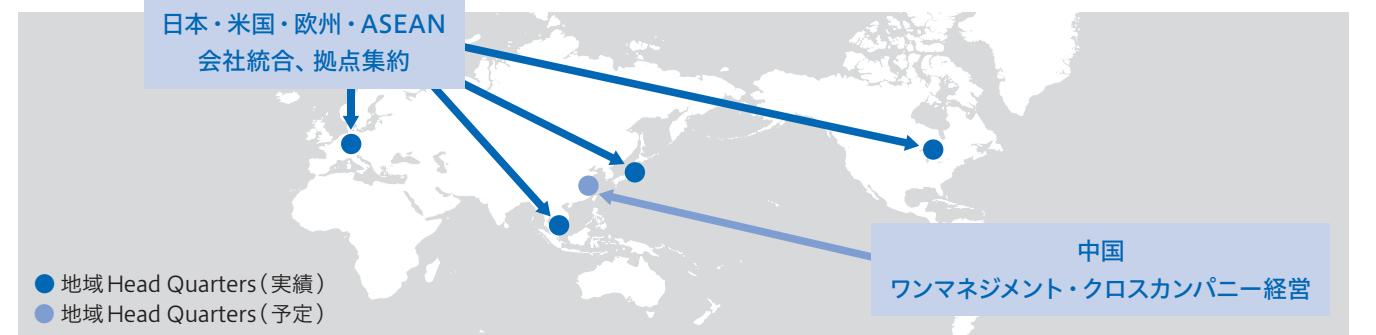
3年累計で440億円のコスト削減を目指す

第1次中期経営計画 (2019～2021年度)	2019年度実績	2020年度	2021年度	3年累計
材料費・加工費削減 (原価率を維持する改善を超える削減額)	60	220	160	440
固定費・間接費削減 (継続効果)				
固定費・間接費削減 (単年度効果)				

組織構造改革

One アルプスアルパインの推進&進化

2019年度 : 日本・米国・欧州・ASEAN 会社統合、拠点集約進行中
中国の拠点集約及びワンマネジメント経営化進行中
2020年度以降 : 車載事業生産 MAP の最適化



株主還元方針および成長投資

株主還元方針	<ul style="list-style-type: none"> 原則、総還元性向として連結当期純利益の30%確保 2019～2021年度の3年間 総還元性向50%、ただし安定配当も考慮
成長投資	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度: コロナウイルス危機対応を優先するも、次を見据えた投資も継続 ESG 環境投資 事業用電力を100%再生可能エネルギーに転換 15億円/年を10年継続投資、回収は20年を計画

教えて！
アルプスアルパイン
株主の皆様からの疑問にお答えします。

Q 自動車業界のトレンド 「CASE」って何ですか？

A 自動車業界の今後の方向性を示すキーワード
Connected：つながり、**Autonomous**：自動運転、
Shared & Services：シェアリング、**Electric**：電動化の頭文字を取ったものです。

Connected

車とネットワークを常時接続することで通信システムを経由した様々なサービスの提供や、道路状況の情報取得・処理により自動運転をサポートします。



アルプスアルパインの新規事業
 ・様々な通信方式に対応したテレマティクス制御ユニットの開発など

Autonomous

今や世界中の自動車メーカーが実用化に向けて開発を進めている自動運転技術。自動運転の普及により、安全性向上や交通渋滞の軽減等が期待されています。



アルプスアルパインの新規事業
 ・乗員のモニタリングシステムなど

Premium HMI

ディスプレイや操作パネルの性能とデザイン性を両立させた上質な車室空間の創出



アルプスアルパインの新規事業
 ・スマホを利用したデジタルキーの実現など



Shared & Service

車を個人で所有するのではなく、社会全体で共有化する動きが今後より一層進むと考えられており、シェアリングシステムのさらなるインフラが求められています。

Electric

エネルギー効率が高く、高精度な電子制御が可能となるEV化は自動運転の実現とエネルギー・環境問題の解決という観点の双方から必要とされている技術です。



アルプスアルパインの新規事業
 ・バッテリーマネジメントシステムなど

アルプスアルパインでは自動車業界の今後の動向を見据え、CASEへ対応するコックピットに快適さをプラスしたPremium HMIが、今後成長する領域と考え、車載市場向け電子部品で培ってきた電子部品事業のコア技術と、広範なデバイスをシステムに仕上げる車載情報機器事業のシステム設計力及びソフトウェア開発力を高い次元で融合させ、競争力ある新製品を創出していきます。

EV Electric Vehicle HMI Human Machine Interface (ヒトと機械が情報をやりとりするための手段、装置などの総称)

アルプスアルパイン
の強み

強み

コア技術の融合 ▶▶ 創出価値 プレミアムな車内空間

インプットテクノロジーとアウトプットテクノロジーとを融合。 ハードとソフトの両面から 直感的な操作を実現したタッチインプットモジュール



タッチインプットモジュールとは、モビリティ時代を想定してアルプスアルパインがご提案する新入出力デバイスです。肘置きの上に設置された小型タッチパネルでカーナビやエアコンを操作、その内容が上部の大型液晶ディスプレイに表示されます。

アウトプットテクノロジー

大型液晶ディスプレイ

「GUI(グラフィカルユーザーインターフェース)」というディスプレイ操作技術を応用。操作対象を画像や図形などで表示するため、より直感的な操作が可能となります。



インプットテクノロジー

アームレスト部の タッチパネル

手袋着用時でもジェスチャーだけでも操作が可能になる、高感度な「静電容量式センサ」と、パネル面に触れた際に、あたかもスイッチを押しているかのような感覚を指先へ伝える「ハプティック®」という高度なHMIデバイスの2つを用いています。



パワー & モビリティプロジェクト

大谷 教明さん



インフォテインメント設計部

脇田 祥嗣さん

開発者からのコメント

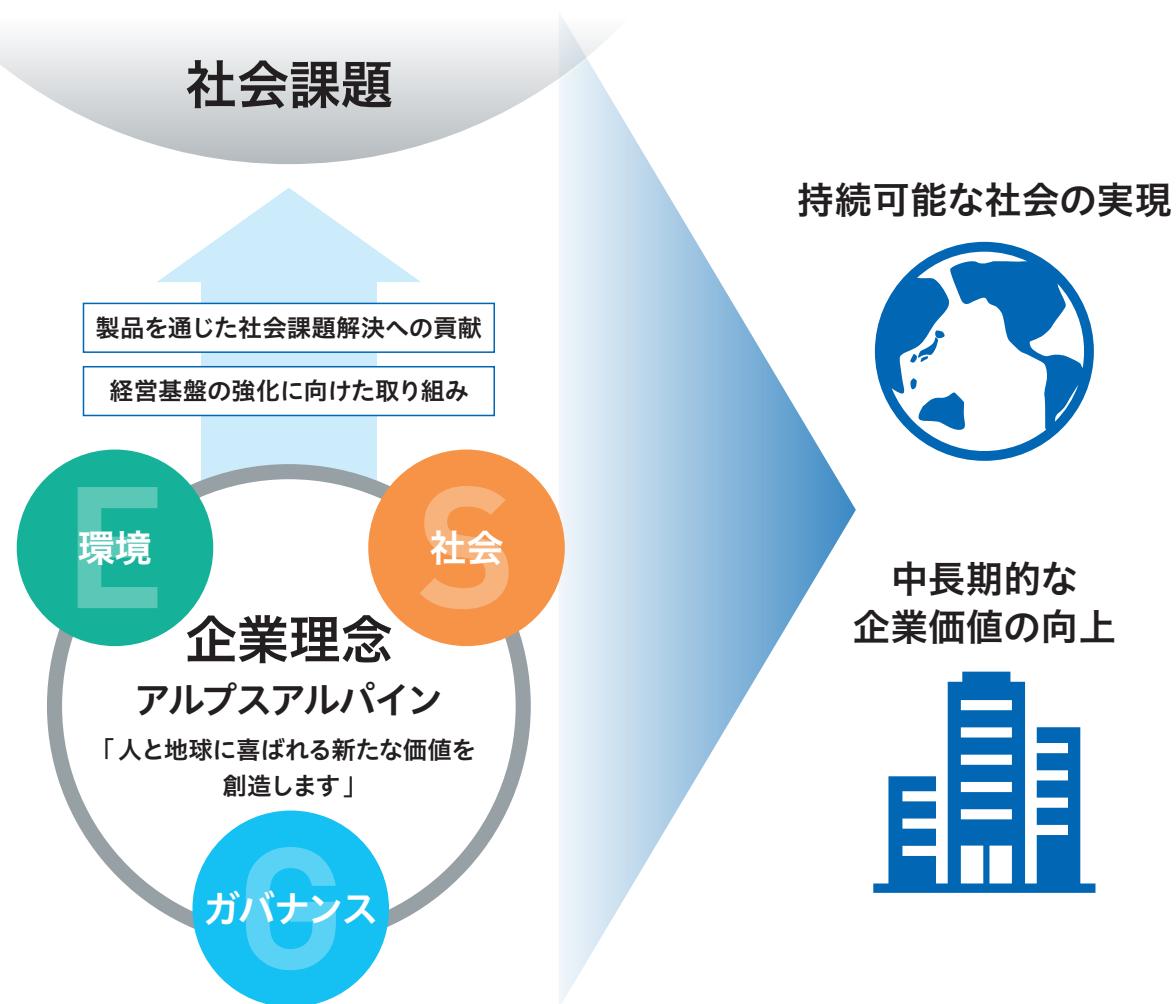
静電容量式センサの誤検出対策やハプティック® リアクタの動作音低減などの技術的な課題と、ブラインド操作可能なタッチパネルGUIの仕様決定に苦勞しました。電子部品事業で培われた高度な操作デバイス技術と、車載情報機器事業のディスプレイ操作技術を融合させ、無事に開発することができました。

※ハプティックはアルプスアルパインの登録商標です。

アルプスアルパインのESG

アルプスアルパインは「人と地球に喜ばれる新たな価値を創造します」という企業理念の下、持続可能な社会の実現ならびに中長期的な企業価値の向上を目指した取り組みを実施しています。

具体的には「製品を通じた社会課題解決への貢献」と「経営基盤の強化に向けた取り組み」において環境(E)・社会(S)・ガバナンス(G)を重視し、事業を展開しています。



製品を通じた社会課題解決への貢献 電力変換モジュールの開発

パワーエレクトロニクス分野に参入し、再生可能領域への取り組みを進めています。電力変換モジュールの開発により、独自材料リカロイ™による画期的な小型・効率化を実現しています。

環境マネジメントシステムの取り組み ISO14001の取得

ISO14001をグローバルの全生産拠点で取得し環境負荷の少ない製品の開発・製造を行い、また各事業所においてもグリーン購入等の活動を通じて、環境負荷の低減に取り組んでいます。



ヘルスケア分野への貢献 マイクロ流路プレートの開発

長年培ってきた金型や成型等の微細加工技術を応用したマイクロ流路プレートは、医療現場で求められる定量性診断等を可能とし、最先端医療等の未来へ向けて可能性が広がるソリューションです。

労働安全衛生の取り組み ISO45001/OHSAS18001の導入推進

国際的な労働安全衛生マネジメントシステム規格ISO45001/OHSAS18001の導入を推進し、リスクアセスメントによる安全健康リスクの低減と管理及び法令等の順守管理を継続的に進めています。



コーポレート・ガバナンスの取り組み ガバナンス体制の強化

客観的な立場から豊富な経験や幅広い見識に基づき、当社経営に対する助言と監督を行って頂くために社外取締役を選任しており、取締役会で積極的な意見交換や助言等を行い、経営監督の強化に努めています。

リスクマネジメントの取り組み 危機管理の徹底

地震や大雨等による災害系リスク、新型コロナウイルスやその他各種感染症リスクのような危機的事象に対して、早期復旧と被害の最小限化を実現するために様々な取り組みを進めています。

アルプスアルパインはこれからも社会や市場のニーズを的確に捉え、製品と事業活動を通じてより良い社会の実現に貢献する「新たな価値」を創造していきます。

TOPICS

2020年
2月

視覚障がい者の生活の質向上を目指し「一般社団法人次世代移動支援技術開発コンソーシアム」を5社合同で設立

アルプスアルパインはAIスーツケースの開発を通じた視覚障がい者の実社会におけるアクセシビリティ^{*}と生活の質向上を目指し、オムロン株式会社、清水建設株式会社、日本アイ・ビー・エム株式会社、三菱自動車工業株式会社の4社と合同で「一般社団法人次世代移動支援技術開発コンソーシアム（以下、コンソーシアム）」を設立しました。

AIスーツケースとは、最新のAIとロボットの技術を組み合わせ、視覚障がい者の自立移動を支援するスーツケース型ナビゲーションロボットです。当社の触覚インターフェースに関する知見を活かし、聴覚・触覚を通じた情報伝達によるユーザー誘導への技術提供を行います。本コンソーシアムへの参画を通して視覚障がい者の移動とコミュニケーションの課題を解決するソリューションの実現に貢献していきます。

^{*}アクセシビリティ：情報やサービスへのアクセスのしやすさのこと。



AIスーツケース

2020年
3月

物流資材管理用「物流トラッカー」が国内向けとして初採用 2020年3月より本格運用開始

アルプスアルパインが位置測位技術や測距技術を応用して開発した物流資材管理用「物流トラッカー」は、通信技術に低価格・小電力駆動・長距離伝送を実現したSigfox社を採用。10年以上の無充電連続稼働かつ屋内外シームレスな位置情報の管理を実現しました。輸送効率化や資材紛失の低減、新規資材購入費用の抑制などが認められ、欧州大手物流会社をはじめとして海外では既に約25万台以上の市場実績をあげています。

この度、本製品が国内で初めてAGC株式会社に採用され、本年3月より本格的な運用が開始されました。同社では当社の「物流トラッカー」を搭載することでパレット管理の効率化を促進。アルプスアルパインでは今後も本製品の提供を通して、物流資材の損耗低減や効率的な配送による運送エネルギー削減に貢献していきます。



物流資材管理用「物流トラッカー」

会社概要

社名	アルプスアルパイン株式会社
英文社名	ALPS ALPINE CO., LTD.
設立	1948年11月1日
資本金	387億3,000万円(2020年3月末現在)
従業員数(連結)	40,443人(2020年3月末現在)
事業内容	オートモーティブ・モバイル・エネルギー・ヘルスケア・IoT・インダストリー各分野の各種電子部品・電子機器の研究・開発・製造・販売

ホームページのご紹介

トップページ



<https://www.alpsalpine.com/j/>

IRページ



<https://www.alpsalpine.com/j/ir/index.html>

2019年11月、アルプスアルパインは経営統合後初となる新たな企業ビジョンを制定いたしました。統合前より両社に共通してあった「社会への貢献」、「社員を大切に」という価値観を活かし、さらなる成長を目指す指針として掲げています。

企業理念

**アルプスアルパインは人と地球に喜ばれる
新たな価値を創造します。**

経営姿勢

価値の追究

私たちは、新たな価値の創造を追究する経営を目指します。

地球との調和

私たちは、地球に優しく環境に調和する経営を目指します。

社会への貢献

私たちは、社会の利益と発展に寄与する経営を目指します。

個の尊重

私たちは、社員の情熱を引き出し活かす経営を目指します。

公正な経営

私たちは、世界的な視点に立った公正な経営を目指します。

事業ビジョン

Perfecting the Art of Electronics

〈Right / Unique / Green〉